



# 福島県のGAPチャレンジについて

日時：平成30年9月18日（火）

場所：中央合同庁舎8号館 講堂

## 福島県

# 1 認証GAPの取組状況

認証GAPにチャレンジする生産者が大幅増加。

認証数は86件（H28末比8倍）

さらに、今年度  
50件以上増

現在

86件  
678ha

H28末  
10件

（平成30年9月7日現在）

【認証件数】

	認証GAP 計	（ 内 訳 ）			
		GLOBAL G.A.P.	ASIAGAP ※1	JGAP ※2	FGAP
H28	10	3	1	6	—
H29	62	18	3	36	5
現在	86	19	4	51	12

※1 ASIAGAPには、JGAP Advanceを含む。（H29,8月より名称変更のため）

※2 JGAPには、JGAP Basicを含む。（H29,8月より名称変更のため）

# 様々な認証取得者が！

広大な県土、各地方毎に  
様々な主体が認証取得！！

一定ロットのある団体認証  
9団体で取得済み！！

農業短期大学校、農業高校  
4校で取得済み！！







## 2 福島県での持続可能性に配慮した取組

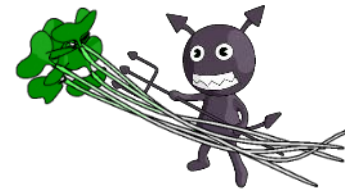
福島県では、GAPに取り組む以前から、『食の安全』・『環境保全』に配慮した取組、農業生産を行ってきた。→SDGsの取り組み自体は、昨日今日始めたのでは無い！

### 自然保護発祥の地、尾瀬

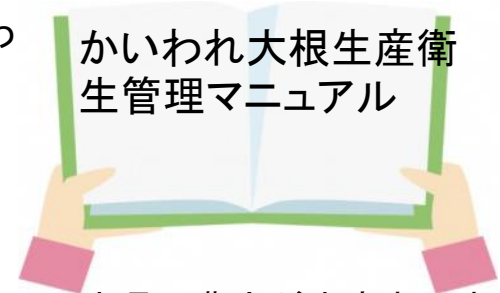


### 農業生産でのHACCP導入

H8 O157発生、かいわれ大根が疑われる



かいわれ大根生産衛生管理マニュアル



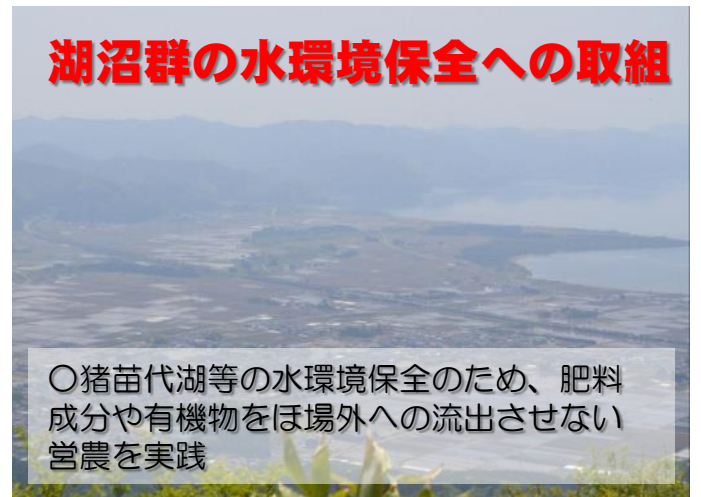
本県の農家が生産者代表として参加し、1.5ヶ月でマニュアル作成(初のGAP?)

### 環境と共生する農業では全国上位



	平成22年度末	全国順位
有機農産物認定事業者数	82名	5位
エコファーマー認定件数	21,889件	1位

### 湖沼群の水環境保全への取組



○猪苗代湖等の水環境保全のため、肥料成分や有機物をほ場外への流出させない営農を实践

## 様々な技術対策

- ・ほ場の土の入れ替え
- ・果樹での樹体高圧洗浄
- ・作土の確保  
(反転耕や深耕等)
- ・カリウムの施肥
- ・基準値以下の飼料や原木の使用
- ・倒伏等の防止
- ・交差汚染防止



## モニタリングと自主検査

モニタリング



産地での自主検査



平成29年度実績

19,545点

全量全袋検(H29)

米9,924,917点

園芸品目(H29)

35,120点

**安全確保に向けた取組の結果、栽培管理された農畜産物は超過なし！**

しかし、いまだ風評の影響...

**安全が伝わらない**

### ◆米の全量全袋検査の結果

【平成29年8月22日～平成30年6月30日】

玄米 【平成29年産】	検査点数	基準値超過数	超過数割合
	約997万点	0点	0.00%

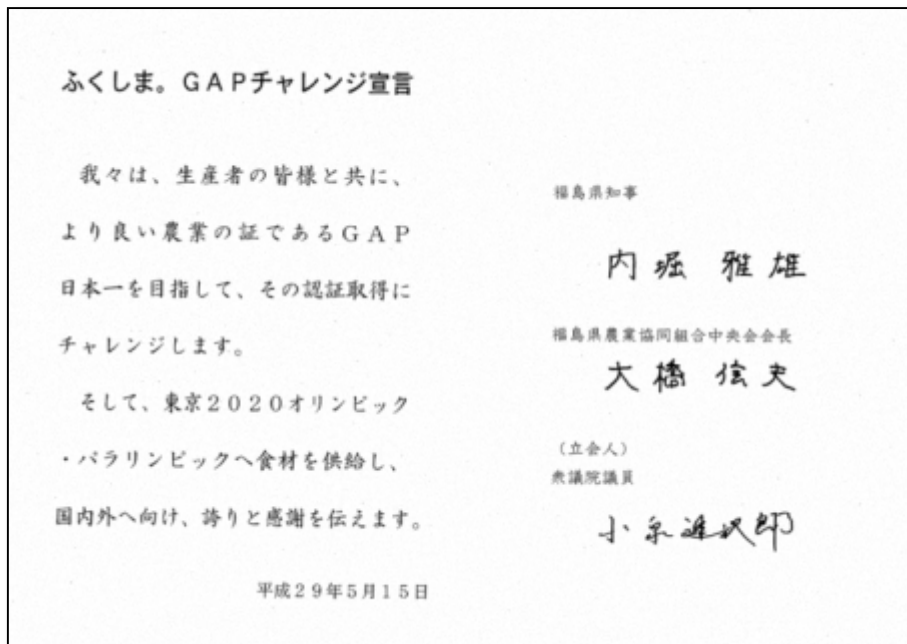
### ◆野菜・果物、畜産物等の検査結果

(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

種別	検査件数	基準値超過数	超過数割合
野菜・果実	817件	0件	0.00%
畜産物	1,065件	0件	0.00%
栽培山菜・きのこ	244件	0件	0.00%
海産魚介類	1,566件	0件	0.00%
内水面養殖魚	16件	0件	0.00%
野生山菜・きのこ	568件	1件	0.18%
河川・湖沼の魚類	329件	2件	0.61%

### 3 ふくしま。GAPチャレンジ宣言！

風評払拭に向け、安全・安心な農業生産を行う、より良い農業の証であるGAP日本一を目指すこととし、福島県とJA福島中央会による「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」を行った。



「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」

右より、齋藤農林水産副大臣（当時）、小泉進次郎衆議院議員、内堀知事、大橋JA福島中央会会長、長沢復興副大臣（当時）、

宣言に込めた  
思い

震災と原発事故で傷ついた生産者のプライドを、認証取得のプロセスを通して、新しい誇りとして創り上げたい。  
オリパラ調達基準をクリアして、福島のおいしい食材を食べていただくことにより、震災以降の国内外からの応援に対する感謝の気持ちを伝えたい。

そして、真摯に  
農業に向き合う  
福島を見て欲しい。



# ふくしま。GAPチャレンジ宣言は、県内外に届いた！ 県を挙げてGAPチャレンジ中！！

## 認証取得者

- GAP宣言に共感
- 先導者として積極的に普及啓発
- 「GAP認証取得して良かった」と発言



県政広報番組の取材

## 生産者

- GAPを必要な取組と認識
- 研修会には毎回多くの生産者が参加
- 多くの生産者がチャレンジ開始



研修会には数多くの参加者

## 農業団体等

- 各JAでGAP特別決議、団体認証に着手
- 法人協会等多くの関係組織でもGAP推進
- 小売業者等からもGAP問合せ



団体認証も見据えた研修会

## 報道機関

新聞等でも連日のようにGAP記事  
→生産者、農業団体、さらには消費者の認知度向上

# 4 GAPチャレンジへの支援

GAPチャレンジ初年度は、生産者の理解促進、負担軽減に取り組んできた。

- 宣言によるメッセージ
- JA、県、農業団体で研修会多数開催
- GAP推進月間・推進大会で広く周知



GAPって何？

負担は？費用もかかるの？

- 団体認証**で負担軽減
- 審査費用等必要な経費への**補助**
- 分かり易い資料で不安と負担低減



- GAP指導員JA577名、県184名育成
- 現地研修、模擬審査
- コンサ、JA、県が連携した個別支援



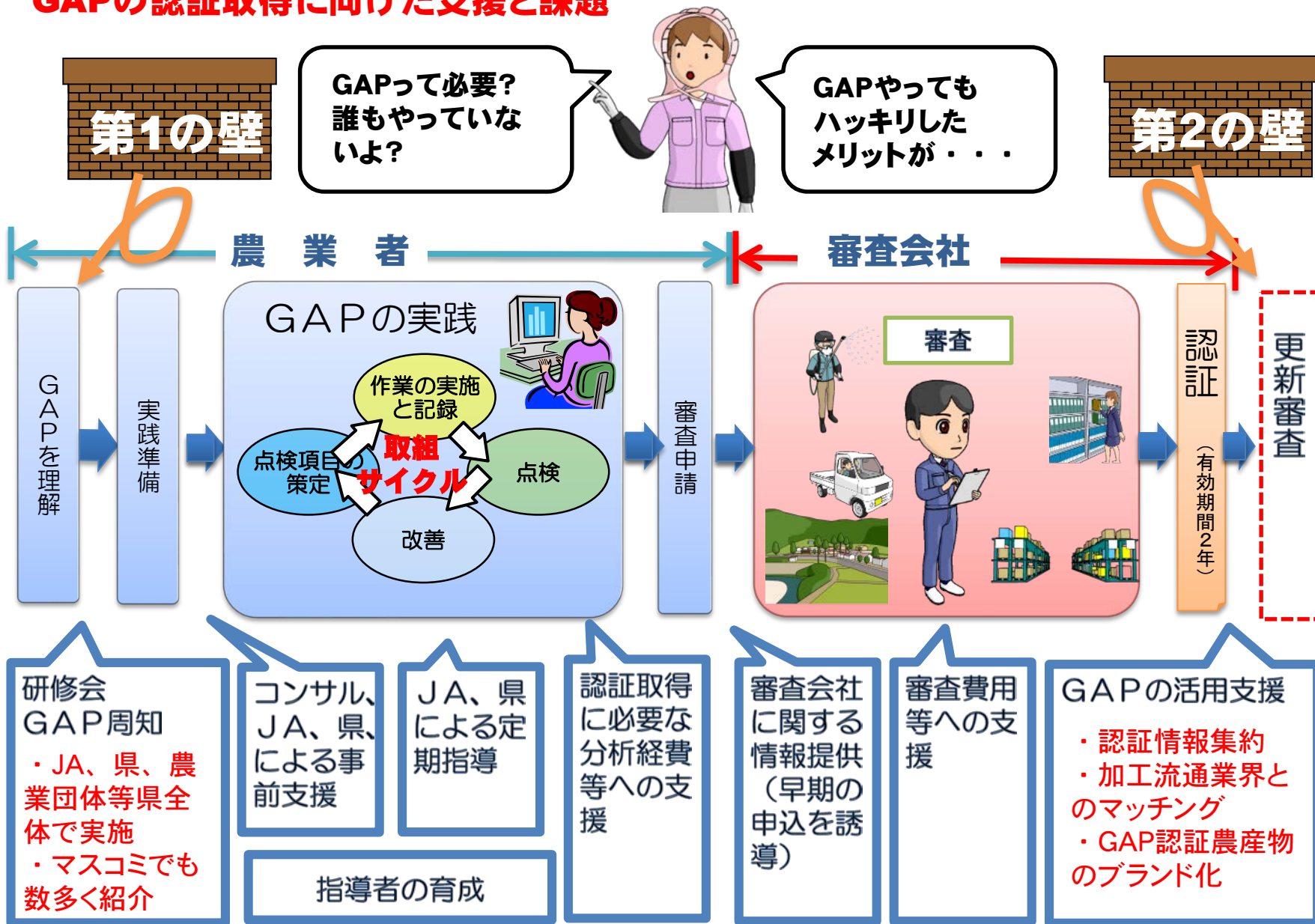
一人じゃ心配

私の経営にあったGAPって？

- 推進対象者**を明確化
- 各GAP**コンサ**等からきめ細かな支援
- 選択肢を増やすため**FGAP**創設



# GAPの認証取得に向けた支援と課題



# 5 現在、チャレンジ中

## 団体認証・地域やグループでの認証でロット確保



- 全てのJAで団体認証にチャレンジ中
- 地場産品づくりや担い手育成の視点から、地域やグループでもチャレンジ開始（市町村も積極的）

## GAPの見える化

誰からも、どこからでも見えるよう



（FGAP以外の認証GAPも今後見える化予定）

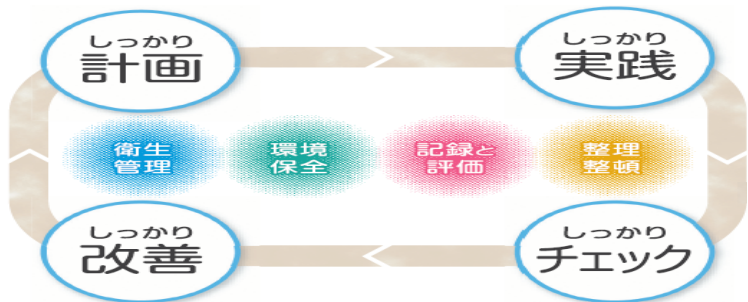


選んでいただけるよう！

# 消費者・実需者の理解促進

GAPのこと、もっともっと  
知っていただきたい

## そもそもGAPって何？一言で言うと？



お客様へ、  
一言で言う  
と？



安全と品質の  
太鼓判

## 持続可能な農業生産

**SDGs**  
(持続可能な  
開発目標)

温暖化対策

成長・雇用

循環型社会

ジェンダー平等



SDGsに繋がる

## 信頼を繋いで競争力強化



迫るHACCP義務化



信頼のフード  
チェーンの源泉  
であること

風評を経験しているからわかる  
一部の努力では伝わらない!!!

全国での取組が必須



**まだまだ、GAPチャレンジを進めます。  
そして、持続可能性に配慮した農業生産を続けます。**

**(吾妻山の五色沼、標高1,740m、神秘的に変化するコバルトブルーの色から別名「魔女の瞳」とも。これら美しい県土を大切に・・・。)**